

全国規模のスポーツ事業の「ねんりんピック岐阜 2025(第37回全国健康福祉祭ぎふ大会)」と大垣市の地域スポーツ事業に連続して参加・参画したことにより見出された成果と課題

研究・調査担当: 演習 I : 小林涼佳・川本菜々香(経営学部スポーツ経営学科)

研究協力: 神田琴乃、宮城千裕、笠塚遥仁

1. 研究目的(何を明らかにするのか)

本年度、全国規模のスポーツ事業の「ねんりんピック」と大垣市や大垣市教育委員会、大垣市体育連盟、大垣市レクリエーション協会(以下、大垣市レク協会)が主催する地域スポーツ事業に運営スタッフとして地域実践教育(PBL)の一環として参加・参画した。この一連のスポーツ事業の活動を「ふりかえり」、それを通して得た成果と今後の課題および種々のスポーツ事業に関する課題をスポーツ経営専攻学生の目線で分析し、成果と課題を顕在化し、今後の在り方を検討する。



2. 研究方法(どの様に明らかにするのか)

1) 2025年度の主な活動内容(対象とした参加・参画事業)

開催時期・事業名	主催者	活動内容
6月: OGAKI スポーツフェスティバル	大垣市・大垣市体育連盟	障がい者スポーツ・マグダーツの活動支援
9月: れくカアップ講座・クラブゆうすぽーつ	大垣市レク協会	審判と運営講習・ねんりんピックプレ大会
10月: ファミレク♪ひろば「あそびの日」	市教委・大垣市レク協会	子どもの「運動あそび教室」講師・女短協力
10月: ねんりんピック 2025 in ぎふ	厚生労働省・岐阜県 他	マグダーツ競技の審判と競技運営

第7回 OGAKI スポーツフェスティバル



大垣市体育連盟、大垣市レク協会、岐阜県障害者スポーツ協会のスタッフと連携してパラスポーツ種目の「アキュラシー」「ポッチャ」「車椅子スラローム」の活動を支援した。

れくカアップ講座・クラブゆうすぽーつ(大垣市レク協会主催の定期開催事業)



大垣市レク協会主催の定期開催事業を「ねんりんピックのプレ大会」と位置け、協会スタッフと協働して審判法と競技運営方法を確認した。試合の組み合わせや得点記入を慎重に確認した。

ファミレク♪ひろば「あそびの日」(大垣市教育委員会主催・大垣市レク協会主管)



大垣市教育委員会主催家庭教育推進事業の一環で、大垣市レク協会が主管した事業。大垣女子短期大学の学生の協力を得て、尻尾取り鬼や猫とネズミ、ネズミ逃がしといった鬼遊び、紙風船あそび、からだジャンケン

といったダイナミックな遊びプログラムを学生が企画して、学生のみで運営した。



参加者(競技者)が納得する審判や間違いが許されない得点の記入、複雑な試合の組み合わせを円滑に進行しつつ、笑顔を忘れない

受付は笑顔でお迎え

市長の隣で賞状授与の補助

午前の部の記念写真

2) 参加・参画した学生の人数

OGAKI スポーツフェスティバル(2名)、ファミク♪ひろば(6名)、れくカアップ講座(6名)、ねんりんピック(6名)の4つスポーツ事業に参加した学生数は、**のべ20名**であり、これらのスポーツ経営専攻学 学生を調査対象とした。

3) 調査方法と質問項目(どのような方法で何を調査するのか)

方法: インタビュー調査(半構造化したインタビュー調査: 事業直後と事業翌週のゼミでのふりかえりを含む)

質問項目: 学生個人としての成果・学生の課題やスポーツ事業そのものの課題・その他

4) 研究倫理(個人情報保護)

ゼミ担当教員に岐阜協立大学「研究倫理リーフレット」に基づき「人を対象とした調査・研究の研究方法」について教育を受け、遵守して実施した。個人情報の保護や研究調査への協力の仕方について。

3. 調査・研究結果と考察(何が明らかとなったのか: 参加参画により得られた成果と今後の課題とその分析)

1) スポーツ事業の課題

- ・参加者の固定化: 大垣市青年の家(大垣市レク協会)に関連する参加者が多く、広く新規の参加者が極めて少ない。
 - = 市レク協会主催の「クラブゆうすぽーつ」のメンバーやその知り合いの参加者が多く、『口コミ集客』となっている
 - = 市の広報やイベントチラシの配布がされているか効果が薄い(この指とまれ方式)
- したがって、アウトリーチ方式などで「地域スポーツ事業」の告知をして新たな参加者を募る。

「告知」→「認知」→「行動」= スポーツ経営を専攻する学生として地域課題の解決に貢献できる点

2) スポーツ事業に参加・参画した学生自身の成果(成長した点)

- ・幅広い年齢層や体力レベル影響されず誰もが楽しめるスポーツがあると知れた(90歳でも一緒に楽しめる)
- ・地域の参加者と交流ができた(参加した児童やその保護者、高齢者、協会スタッフとも)
- = **コミュニケーション能力の向上**(学内の同年齢以外との意思疎通: 声掛け・傾聴)
- ・スポーツレクリエーション活動が地域の交流の“きっかけ”となる(交流のツール)と理解できた
- ・地域とスポーツの連携の重要性が実体験を通して理解できた
- = **コミュニケーション能力が向上・専門知識が獲得できた**

3) スポーツ事業に参加・参画した学生自身の今後の課題

- ・地域スポーツ事業に参加する機会を求め、参加回数を増やし、地域との交流を深める

